

道徳授業地区公開講座・講演会のお知らせ

春爛漫の季節となってきました。日頃より本校の教育活動へのご理解・ご協力に感謝いたします。新型コロナウイルスの感染状況はいまだ収束の気配を見せていませんが、学校内や地域の感染状況を鑑みて、学校公開や行事等の実施を検討し、教育活動を進めているところです。

4月29日（金）は、今年度初めての学校公開日、および道徳授業地区公開講座となります。道徳授業地区公開講座は、道徳教育を地域・家庭・学校で協力して推進するため、年1回実施するもので、全学級の道徳科授業の公開と講演会（意見交換会）を催しています。お子さんの学習の様子をご覧くださいとともに、道徳教育について地域・ご家庭で振り返る機会としていただければと思います。

講演会は、10:30～12:00まで体育館にて「国連平和の鐘を守る会」の代表・高瀬聖子さんにお越しいただき、その崇高な活動についてお話しいたします。ぜひご参加（オンライン含）ください。

国連平和の鐘、および国連平和の鐘を守る会の活動について

愛媛県宇和島市の一市民であった中川千代治氏は、第2次世界大戦に徴集され、ビルマ戦線での激戦の中、連隊は全滅。一人生き残るという体験をしました。中川氏は自分だけが生き残ったという申し訳なさに苦しみます。そして「二度と戦争をしてはいけない」と伝える事が、生き残った自分の使命だと決心します。戦後、自らの菩提寺の吊り鐘が抛出され、空になっていたことに気づき、戦場に携えた軍刀と26カ国のコインを溶かして平和を祈った「世界絶対平和万歳の鐘」を奉納します。

昭和26年、パリで開催された第6回国連総会にオブザーバーとして自費参加した中川氏は「世界の平和を願う人々からコインを貰い、その平和への祈りを一つにした鐘を国連に寄贈し、その鐘を世界の平和のために鳴らして欲しい」と訴えます。翌年「世界絶対平和万歳の鐘」が人類希求の声としてニューヨークの国連本部完成の記念に受理されることが決定します。まだ国連に加盟できていない日本の一国民の申請が受理されたことは奇跡的なことでした。

この後、中川氏は国連参加65カ国の代表者から硬貨の寄贈を受けます。「国や民族、主義、宗教の違いを超えた、世界絶対平和万歳の鐘」の活動の始まりです。鐘の铸造や、鐘楼の製作、ニューヨークの国連本部への運搬等、共感した方々が無償で引き受けます。そして昭和29年6月8日、平和の鐘の贈呈式が行われました。しかし、中川氏は旅費が工面できず贈呈式に出席することができませんでした。日本が国連に加盟するのは、この2年後のことです。昭和47年にこの世を去るまで、日本を含む世界各国に「平和の鐘」を中川氏は寄贈し続けます。その数は288個にもなりました。

この「国連平和の鐘を守る会」の運動は、その後、娘の高瀬聖子さんに引き継がれていきます。今回ご講演していただく高瀬聖子さんです。父・中川千代治氏の思いや活動、賛同される方々の様子、現在の「国連平和の鐘を守る会」の活動等についてお話ししていただきます。また、「国連平和の鐘を守る会」の事務局は多摩市中沢にあります。身近なところにこのような素晴らしい活動をされてきた方がいたことを、うれしく思います。「生きていく意味」「生かされている意味」「突き動かされるもの」そんな大切な思いを感じずにはいられません。この活動は、この願いは、平和な国に生きるからこそ、伝えていくべきものだと思います。連光寺小学校の子供たちや保護者の皆様が講演を聞き、「大切な思い」とは何か、どういうことなのか、講演を聴く人それぞれに感じ取っていただきたいと思います。

【「国連平和の鐘」について、ホームページ(<https://peace-bell.com/>)より一部抜粋】

講演会は体育館で実施(5,6年生は体育館で参加)しますが、密を避けるため保護者の皆様の会場参加は各ご家庭1名までで定員50名とさせていただきます。会場にてご参加希望の場合は、出席票を担当までご提出ください。定員締切のお知らせ、および配信IDはメールにてご連絡致します。

-----キ-----リ-----ト-----リ-----

4月29日（金）道徳授業地区公開講座・講演会に出席します。

（ ）年（ ）組

保護者氏名（

児童氏名〔

〕